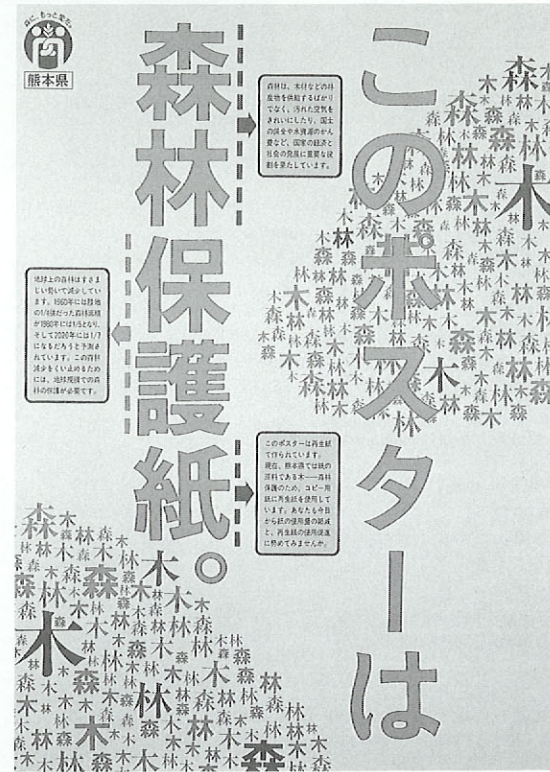
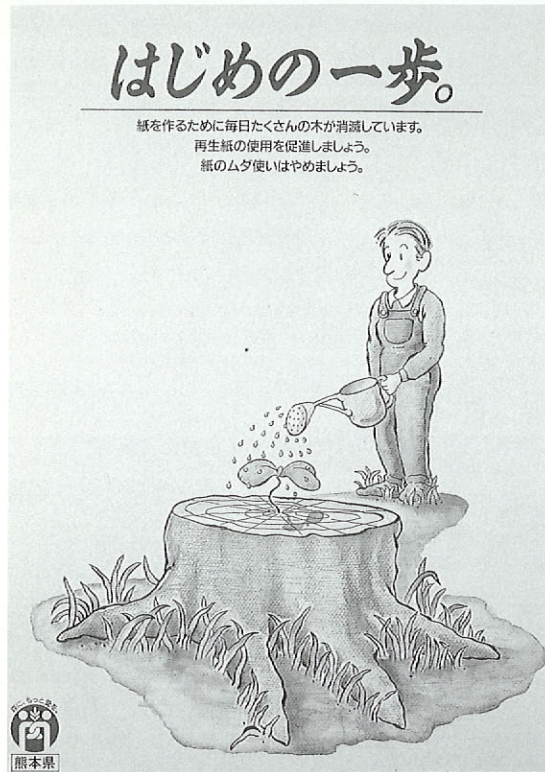


# 私たちの地球を守る第一歩

## 再生紙・竹割りばしの採用



酸性雨、大気汚染、熱帯雨林の破壊...、「地球」を取り巻く環境はどんどん悪化しています。地球レベルで環境問題が論じられる中、熊本県では森林資源を保護し省資源意識を高めるため、今年一月から県庁で使用するコピー用紙を上質紙から再生紙に、また五月には県庁地下食堂の木製割りばしを竹製へと切り替えました。

再生紙の導入は神奈川県、そして東京都、

静岡県に次いで四番目。全国的にも早い取り組みといえます。

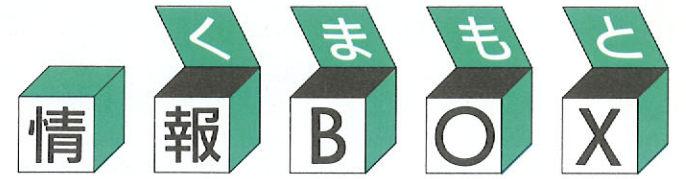
現在再生紙の利用率は、本庁と出先機関とを合わせて約90%という高い率を示し、長期保存の書類や職員採用試験答案用紙などを除き、再生紙への移行は完了しつつあります。

そのほかにも県では、外注している印刷物の再生紙利用や古紙の回収も促進しています。

竹製割りばしの採用も再生紙同様、森林資源の保護対策のひとつとして行われているのです。県庁など公的機関の食堂で木製から竹製へと切り替えるのは全国でも珍しい例です。本庁食堂の利用客は職員、外来客など一日約千六百人。ということは年間にしておよそ四十三万人分の割りばしが消費されている計算です。これを木材に換算すると三十五年生育の杉二十五本分に相当するのです。

一方年間生産量が全国第二位の実績を誇る竹材は、苟から一年で親竹となり、五、六年で伐採されます。しかも木と違って伐採、更新していくことが竹の生産を促し、竹材の需要を高めることから竹ばしの採用に踏み切りました。

地球環境問題が憂慮されている今、私たちに出来る活動は身近なところにあるのです。例え小さなことでも意識をもって一つ一つ取り組んでいくことが私たちの地球を守ることに繋がっていくのです。



熊本県では、阿蘇地域を国際的な高原リゾート基地にすることを目指して地域整備を進めています。しかし、全国的なリゾートブームの現在、阿蘇でもすでに「三開発が行われ、阿蘇の貴重な財産である環境や景観に影響を及ぼす恐れも出ています。」

そこで阿蘇郡内土二町村は、乱開発を抑制するとともに優れた開発整備を積極的に誘導するための組織づくりを推進し、このほど「阿蘇環境デザインセンター」を設立。五月十日には「阿蘇いこいの村」で細川知事をはじめ、十二町村長、関係者が集まり設立総会が開催されました。

センターでは、それぞれの立場から意見、提言をしてもらえるようにと、各町村から一

人ずつの民間オピニオンリーダーで構成される「地域運営幹事会」や五人の有識者（木島安史氏、戸田義宏氏、葉祥栄氏、村山友宏氏、宮井政次氏）による「顧問団」等の組織の位置づけがなされています。地域の総意で誕生した県下で初めての組織として、全国的にもそのユニークさが注目されています。

すでにセンターでは、地域開発と環境が調和し、優れた地域を創造することが図れるよう「グランドデザイン」策定に着手するとともに、阿蘇地域のサイン計画を検討しています。恵まれた阿蘇の自然環境を乱開発から守り、世界に誇れるリゾート基地づくりのために、また魅力ある地域づくりのために、確実に一歩を踏み出しています。

# 世界に誇れる魅力あるリゾート地を目指して

## (財)阿蘇環境デザインセンター設立

